平成21年度第2回宮前区区民会議

平成21年度 第2回 宮前区区民会議

- 1 日 時 平成21年8月4日（火）午後6時
- 2 場 所 有馬・野川生涯学習支援施設 集会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 永野委員長、宇賀神副委員長、前田副委員長、河井委員、久保委員、佐藤委員、鈴木（和）委員、鈴木（恵）委員、高木委員、田邊委員、谷山委員、千葉委員、恒川委員、福本委員、松井委員、目代委員、持田委員、吉岡委員、吉田委員、渡辺委員
 - (2) 参 与 石田参与、太田参与、佐々木参与、山田参与
 - (3) 事務局 区長、副区長、企画課長、保健福祉センター所長、こども支援室長、企画課主査、保険福祉センター副所長、地域振興課長、地域振興課主幹、向丘出張所長、区民サービス部長、建設センター所長
- 4 議 題
 - (1) 第1期区民会議からの提案に対する取組状況について（公開）
 - (2) 専門部会の審議状況について（公開）
 - ア 公園・地域づくり部会報告
 - イ 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会報告
 - (3) 平成20年度宮前区協働推進事業評価について（報告）（公開）
 - (5) その他（公開）
- 5 傍聴者数 0人

午後5時58分開会

- 1 開 会
- 2 新委員自己紹介

司会（門ノ沢） 皆さん、こんばんは。定刻少し前でございますが、委員の皆様お集まりでございますので、ただいまから平成21年度第2回宮前区区民会議を開催させていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます宮前区区役所副区長の門ノ沢でございます。よろしくお願いたします。恐縮でございますが、着席をさせていただきます。

それでは、会議に先立ちまして少し事務連絡をさせていただきたいと存じます。

本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づきまして公開とさせていただいております。したがって、傍聴者、報道機関等の取材を許可しておりますので、あらかじめご了承くださいと存じます。また、会議録の作成に当たりましては速記者の同席をいただいておりますので、

よろしくお願ひいたします。そして、本日のご発言のございました方々につきましては、後日確認をさせていただきますと思いますので、重ねてお願ひいたします。なお、確認後の議事録につきましては、宮前区役所ホームページに掲載をさせていただきますと存じます。

本日、傍聴者はいらっしゃらないので、傍聴者への注意事項については省略させていただきますと存じます。

次に、本日の委員、参与の方々の出欠状況でございますけれども、事前にご連絡をいただいております方々についてご報告をさせていただきますと存じます。参与につきまして、飯田参与、平子参与、矢沢参与、持田参与から事前に欠席される旨のご連絡をいただいております。また、石田参与におかれましては途中退席をされる予定と伺っております。

ここで、委員の交代についてご紹介いたします。産業・まちの活力の分野で宮前区商店街連合会からの推薦ということで、これまで川島委員にご活躍をいただいておりますけれども、このたび委員交代のお申し出がございまして、谷山安治委員が同じ宮前区商店街連合会からの推薦ということでご就任をいただくことになりました。本日は初めてということでもございますので、谷山委員から簡単に自己紹介をお願いしたいと存じます。谷山委員、よろしくお願ひいたします。

谷山委員 川島会長の後に宮前区商店街連合会の副会長ということになりまして推薦されました。僕のほうの母体は神木本町商店会というところの会長でやっております。地域が活発になるように努力をしておりますので、この区民会議の中に少しでも残せればいいかなと思っております。よろしくお願ひいたします。

司会（門ノ沢） ありがとうございます。なお、谷山委員におかれましては、宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会への参加をご希望と伺っておりますので、積極的なご議論をよろしくお願ひしたいと存じます。

それでは次に、皆様のお手元に配付させていただいております資料の確認をさせていただきますと存じます。

まず、本日の会議次第が初めでございます。

次のページをおめくりいただきまして、別紙1でございますが、座席表、次のページで別紙2、宮前区区民会議委員、参与名簿でございます。

その次のページでございますけれども、議事資料でございます。A3の用紙でございますが、資料1として、第1期宮前区区民会議からの提案に対する取組状況。

おめくりいただきまして、資料2として宮前区区民会議公園・地域づくり部会の審議状況でございます。それから下にA3の用紙が2枚ございます。それをおめくりいただきまして、次に資料3でございます。宮前区区民会議宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会の審議状況でございます。

次に、A3の用紙をおめくりいただきます。資料4でございますけれども、平成20年度宮前区協働推進事業評価一覧表でございます。

このほか第1期の提案に対します取組状況に関連するものとしまして、子育てかわら版、認知症予防のための料理教室のチラシ、認知症予防講演会のチラシ、歳時記みやまえをそれぞれ配付させていただいております。

以上が本日のお手元にお届けしてございます資料でございますけれども、不足、落丁等がございましたら挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

大丈夫ですか。それでは、これより会議に入らせていただきます。お手元の進行に従いまして会議を進めさせていただきます。

初めに、会議の開会に当たりまして、区民会議の事務局を代表いたしまして、区長の松下よりごあいさつを申し上げたいと存じます。よろしく申し上げます。

区長 皆さん、こんばんは。宮前区長の松下でございます。今日は皆様大変お忙しいところ、今年度2回目の宮前区区民会議にお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

本日の区民会議は、ことしの5月に完成したばかりの有馬・野川生涯学習支援施設で開催の運びとなりましたけれども、これは区民会議をもっと知ってもらおうということで昨年、第3回目の区民会議を向丘出張所で開きました。その一連の動きの中で開催しているということでございます。今年度は区役所を挟んで反対側にある新しい施設で開催させていただきました。

さて、事務局によりますと、専門部会の審議も佳境に入ってきたと伺っております。7月までの専門部会では一定程度の課題解決がなされており、あとはどのように進めていくかという具体的な中身についての審議になると聞いておりますので、11月の区民会議までの残り3カ月間となりますが、さらに議論を深めていただければと思っております。

また、本日は報告事項として20年度の協働推進事業評価を予定しております。区民会議も本実施から4年目を迎えます、協働推進事業においても区民会議で議論された提案や議題を踏まえた事業が非常に多くなってきております。第2期区民会議からご提案をいただいた際にも、その実現に向けまして、評価推進事業等への位置づけを含めまして区役所としてしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

それでは、本日はこれから議事が盛りだくさんではありますが、皆様の積極的なご討議をお願いいたしまして、簡単でございますけれどもごあいさつにかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

司会（門ノ沢） ありがとうございます。

それでは、これからの進行は委員長にお願いしたいと存じます。永野委員長、よろしく願いいたします。

永野委員長 皆さん、こんばんは。第2期の区民会議、第6回となりました全体会でございます。きょうは宮前区の南の端、有馬に去る5月にオープンしたばかりの有馬・野川地区生涯学習支援施設に会場を移しての会議でございます。

この施設について説明をさせていただきます。この会館は10年前、平成11年に川崎市の2010プラン第3次中期計画で整備が具体化しました。そして、それ以来、地域の町会・自治会を初めとして、老人会、子ども会、青少年指導員、体育指導員など地域の50にも上る団体の賛同を得て推進協議会を立ち上げて、そして行政とのパートナーシップのもと、基本構想、基本計画を市民参加でつくり上げてここまで来たものです。今は成人してしまっていますが、当時、小学生だったり中学生だったりした、そういう子どもたちも参加してワークショップなどを開いて計画案を練り上げて、ここに完成に至ったものです。

公共施設の少ないこの地域にあって、4つの大きな役割を持った川崎市で初めての施設です。1つ目は、生涯学習社会推進の役割。これは市民館、文化会館の機能ですね。それから2つ目として、子どもからお年寄りまでに対する読書支援の役割です。もう既にボランティアによる子どもたちへの読み聞かせ活動などが開始されています。それから3つ目は、市民活動支援の役割。地域の活動団体、ボランティア団体などが連携して、お互いの活動をつなぎ、結び、広げるといった、そのために人材、情報、知恵、場所などを支援する機能ですね。それから4つ目は、コミュニティ、交流の役割です。町会会館のような地域コミュニティ活性化の機能を持っています。

そして施設の基本理念としては、この施設は地域の人々の自発的な学習、文化活動の拠点であるとともに、人々の協力の和による学び合い、福祉での支え合い、助け合いの場、まちづくりや市民活動創造の場、そしてそれらを知恵や人材、情報、場の提供などで支援する地域の拠点となる施設である、そういうふう考えられています。

一昨日には施設利用登録団体の総会も開かれたようでございますけれども、より多くの方々に利用していただいて、市民みずからの活動が活性化していけるように、使いやすい、連携しやすいような運営を今後つくり上げていっていただきたいと思えます。また、区民会議からの提案にもありますように、地域のたまり場、ご近所サークルの形成など、新たな地域課題の解決のためにも利用されることを期待していきたいと思えます。

少し長くなりましたけれども、開館まで10年間かかわってきた一人としてご紹介させていただきます。

議 事

永野委員長 それでは、これから議事に入りたいと思えます。ここからは私が進行を務め

させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(1) 第1期区民会議からの提案に対する取組状況について

永野委員長 それでは、議事(1)の区民会議からの提案に対する取組状況についてでございますけれども、初めに事務局から説明をいただきたいと思います。それでは事務局、よろしくお願いいたします。

事務局(岩佐) 企画課の岩佐でございます。どうぞよろしくお願いいたします。座ったままで失礼いたします。

それでは、お手元の資料1、第1期宮前区区民会議からの提案に対する取組状況をごらんください。あわせて、取り組みに関連したチラシ類も配付させていただいておりますので、こちらをごらんいただければと思います。こちらの資料につきましては、前回の区民会議は5月29日ございましたけれども、それ以降に新たに進捗等のあったものについてのみを記載しておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

資料の構成でございますが、上の段の2つが18年度提案に対するものでございます。それから下の段の2つが19年度提案に対応するものになっております。

また、各提案に対する具体的な取り組みの前に、◎と○と●という3種類の符号をつけさせていただいております。こちらにつきましては、前回の区民会議全体会のご意見を踏まえて、その取り組み内容の主体がわかるように3つに分類させていただきました。具体的な内容につきましては、資料の左下をごらんいただきたいと思いますが、こちらに分類という形で書かせていただきました。上の◎でございますが、こちらは地域主体の活動を行政が支援しているもので、区民会議提案の趣旨に合致するものということでございます。括弧書きで、提案を受けて実施しているものも含むということでございます。それから○が区民提案を受けて行政が新規または拡充という形で実施している事業でございます。3つ目の●ですが、行政が従来から実施している事業などで区民会議提案の趣旨に合致するものという形で分類をさせていただいております。

それでは、資料の上のほうに戻っていただきまして、個別の取り組み状況について説明させていただきます。まず左上、高齢者福祉をごらんください。

まず提案①でございます。ご近所サークルの形成につきましては、ここに◎をつけさせていただきましたが、わたしの町のすこやか活動が実施されております。この間、鷺沼すこやか会と神木本町地域推進委員会の2団体が活動を開始いたしまして、7区の中では最多の10団体になっております。

続きまして、提案②でございますが、地域ぐるみの散歩活動などの実施につきましては、2つの取り組みということで進捗がございました。まず公園体操でございます

が、みんなDE体操棍ヶ谷金山公園ということで5月からスタートいたしました。また現在、区内では30会場で公園体操が実施されています。さらに、数カ所の開始の動きもございまして、取り組みは当初より拡大の方向で進んでおります。

次の公園体操マップでございしますが、こちらは5月14日に第2回のマップ作成検討委員会が開催されております。メンバーは、体操グループのリーダーの方を初め、ボランティアさん、運動普及推進員の方、民生委員、2地域包括支援センターの方に参加いただきまして、公園体操マップの内容についての協議をいたしました。今年度中を目途にマップの作成、印刷、配付までを行う予定でございます。

続きまして、提案の④になります。高齢者の学校給食体験の実施につきましては、提案を一部変える形で実施させていただきました。その中で進捗のあったものとして、介護予防事業でございまして、まず1つは栄養改善の普及啓発ということで4月から7月にかけて料理教室、6月30日に認知症予防講演会－食事編－、7月15日・29日で認知症予防のための料理教室を実施しております。お手元に資料を配付させていただいております。こちらはチラシですけれども、「認知症に強い脳をつくろう」と「おいしい料理で脳トレ 4日間講座」というものを配付させていただいておりますので、後ほどご参照いただければと思います。

また、介護グループの支援としては、6月、7月にそれぞれ神木お茶飲み会とふれあいサロンさつかの活動支援に取り組ませていただいております。

次に、子育て支援についてご説明いたしますので、資料の右側のほうにお移りください。提案②でございます。町内会組織等を利用した効果的で効率的な地域子育て情報の発信でございます。こちらでは子育てかわら版の13号が7月16日付で発行されております。かわら版につきましては、お手元に「宮前区子育てかわら版」という形で資料を配付させていただいておりますのでご参照いただければと存じますが、こちらは年2回、2万部を発行しております。町内会のほか、行政機関ですとか保育園、幼稚園、子育て支援センター、医療機関、郵便局、社協などへ配付させていただいております。宮前区の中ではみやまえ子育てガイドとことこを発行しておりますが、こちらの発行は3年ごとになっておりますので、それを補完する形で子育てに関する情報を発信するものでございます。

続きまして、提案⑤といたしまして、子育て支援センターの拡充でございます。子育て支援センター土曜開所ということで、6月6日土曜日10時から15時に実施させていただいております。それぞれの参加者につきましてはこちらに書いてあるとおりですが、すぐおでは大人87人、うちお父さんが25人見えたということでございますが、お子さんを入れて合計156人の参加がございました。また、さぎぬまでは大人57人のうちお父さんに18人参加いただいたということで、子どもさんを合わせて106人の参加がございました。次回は9月26日に予定しております。

続きまして、提案⑧です。子育て関連支援組織による協議会（ネットワーク）の立ち上げと運営でございます。宮前区子ども・子育てネットワーク会議ということで、以下の事業を宮前区に転入してきた方を対象として行いました。5月21日には子育てグループ交流会ということで、8グループの参加がございました。また、6月11日には宮前市民館でうえるかむクラスを開催しまして、26組の方に参加をいただきました。また、6月18日には向丘出張所でうえるかむクラスを開催いたしまして、こちらでは13組の方の参加がございました。

続きまして、提案⑨になります。地域などへの出前講座の実施でございます。こちらは2つございまして、まず上のほうでございますが、親と子の子育て応援セミナーでございます。こちら、ことしは前期、後期の2回に分けての開催を予定しております。前期としましては5月から11月、7回の連続講座ということで、定員が35名でございましたが、52組の申し込みがございました。これまでここに書いてありますとおり7回のうち4回のセミナーが行われておりまして、それぞれ記載のと通りの参加があったということでございます。また、後期につきましては9月から12月に7回連続講座を予定しておりまして、こちら35人の定員のところ、既に72組の申し込みということで、前期分を上回る状況となっております。

次の出前講座ですけれども、こちらについては5月11日スキンケアについてということで、子育て支援センターすがおで、26人の参加がございました。また、5月29日には母親の健康管理ということで、ふぁみいゆ平子育て支援センターで16人の参加がございました。また、6月8日には幼児の救急処置法についてということで、初山幼稚園で52人の方の参加があったということで、それぞれ出前講座が行われ、多くの方に参加をいただいたところでございます。

次に、19年度提案のものについてご説明いたしますので、資料左下をごらんください。初めに地域コミュニティの関係でございます。まず提案①でございます。小学校区単位で地域の特徴を活かしたコミュニティの促進でございますが、地域のイベントカレンダー「歳時記みやまえ」を4月から発行させていただきました。こちらにつきましては、お手元に「歳時記みやまえ」というA3判のものを折ったものなんですけれども、これの7月発行をお配りさせていただいております。めくっていただきますと、盆踊り特集という形になっておりますけれども、これを毎月発行しております。ここでは区内各地のお祭り、イベントの月間カレンダーを作成いたしまして、町内会・自治会を通じて回覧させていただいております。7月号は盆踊り特集ということで皆様方にご協力いただきながら情報を収集させていただきまして、発行させていただきました。引き続き情報収集に努めさせていただきたいと思っておりますので、御協力の程よろしくお願いいたします。

それから提案②でございますが、「地域のたまり場」の創出でございます。こちら

につきましては、地域交流スペースということで商店街における地域のたまり場を鷺沼地区で6月から実施しております。毎週の火曜日にやらせていただいております。具体的には、ここに書いてありますとおり、いきいき健康マージャンということで健康マージャンを毎週やっております。表にございますとおり6月2日が第1回目でしたが、当初は9人の参加でございましたが、その後、市政だより等でも広報させていただき参加者が増えまして、多いときは7月21日の40人ということで、マージャン卓が満杯になる日もございます。

またもう1つの柱としましては、7月以降、月1回ペースで各種の講座を開催していくことを企画しております。7月28日に市民救命士養成講座を開催させていただきました。16人の方にご参加いただいております。また8月以降も高齢者ですとか環境などに関する企画を今練っているところでございまして、順次開催させていただきたいと考えております。

次に、地域防災についてご説明いたしますので、資料の右下をごらんください。地域防災についての提案①でございます。（仮称）宮前区版「みんなでやろう防災対策」の作成でございます。こちらは6月に防災ニュース第4号を発行いたしました。7000部を発行いたしまして、これは町内会・自治会を通じて各世帯に回覧をさせていただいたところでございます。

続きまして、提案③といたしまして、（仮称）宮前区防災推進員の育成ということでございますが、こちらは宮前区防災推進員を養成するための研修ということで、前年度も21年1月31日と2月1日に開催させていただきましたが、今年度は7月25日、26日とこの2日間に開催いたしまして、34人の方に参加いただいたところでございます。研修の内容は、推進員の役割を初め、ここに書かせていただいたような内容でございます。

雑駁ではございますが、以上で第1期区民会議からの提案に対する取組状況についての説明を終わらせていただきます。

永野委員長 ありがとうございます。今の第1期宮前区区民会議からの提案に対する取組状況についての説明について、何かご質問、補足することがあればお願いいたします。

前田副委員長 それでは質問させていただきます。子育て支援センターの土曜開所についてなんですけれども、これを見ますと、年に2回ぐらいしか土曜日開所しないみたいなんですけれども、子育て支援におきましてお父さんの子育て参加を促進するとか、お父さんに子育てのことを学んでいただく、それから平日働いているお母さんたちが土日の休みなどに子育ての情報交換や相談ができるようにするというところで、首都圏の多くの自治体では子育て支援センターの土曜開所というのは恒常的に行われております。年に2回しか子育て支援センターがあかないというのは、むしろ首都圏において

はほとんどあり得ないと思うんですね。年に2回ということは、1回子どもが病気とかで逃すと年に1回しかないということなので、最近よく置かれているのは、恒常的に土曜日をあけますので両親学級などもこの子育て支援センターで土曜日やって、お父さんに育児のことを出産前に学んでもらうという試みがほかの自治体では非常に盛んに行われていますので、これについての今後の展望はいかがかなとお聞きしたいのですけれども、どうでしょうか。

こども支援室長　こども支援室の高子と申します。私からお答えさせていただきます。確かに宮前区におきましてのセンターでの土曜日は年2回程度ですけれども、このセンター事業そのものは市の事業ということで、区の裁量範囲が限られております。ただ、そうは申し上げてやはりニーズはあるということで、今、ほかの区との共同でニーズ調査をしてはどうか、あるいは所管課も交えながら土曜日の開設に向けての対応を今検討中ではあります。

ここに書かれているすがお、さぎぬまに関しては公設のために、市の職員がここで対応しておる関係もあり、月曜日から金曜日ということになっておりますが、子育て支援センターはこのほかに民営の保育園に併設されているセンターもございます。あるいは昨年度からこども文化センターに併設している子育て支援センターもございます。こちらは民営ですので、必ずしも月曜日から金曜日ということではなく、週5日ないしは児童館型の場合は週3日の開設という規定しかございませんので、市あるいは区のほうの働きかけによって土曜日も含んだ開設ということは今後検討の土台には十分のことができますので、そのことを含めて所管課と協議してまいりたいと思います。

なお、子育て支援センター以外のこども文化センター等に関しては土曜日も日曜日も開設しておりますので、親子連れの利用も可能ではあります。ただ、学齢児のお子さんが多いという施設で、乳幼児だけ、あるいはその親子だけが利用するには確かに使い勝手がいま一つというところもあるかと思っておりますので、その辺はこども文化センターの活用も今後視野に入れながら、少し広い形で土日、特に土曜日の父親の育児参加ができるような形を検討していきたいと考えております。

前田副委員長　ニーズ調査を改めてするまでもなく、前にも申し上げたように、子育て支援の分野はもう10年以上の先進事例がございまして、土日にニーズがあるということは自明の事実です。ですから、その土日にどういうふうに親子が来やすい場所を設定するかということに関して、どういう運営がいいかということを考えるのが普通のやり方で、公立直営でやれば公務員の勤労条件があって土日にはあけられないということはわかり切っているわけですよ。ですから、本当に必要なサービスを提供するにはどういう形がいいか、何のためにサービスを提供するのかということをお先に考えていただいて、それにふさわしい運営対処や場所づくりはどうかということ。今おっし

やったとおり、こども文化センターへ私も行きますけれども、乳幼児の親子は多分行きづらいと思います。施設のにも狭いですし、学齡児が走り回っていますので、そういうのを時間帯を分けてどう利用するかとか、いろんな先進事例が各所にありますので、そこから学んでいただいて、いいものをつくっていただければと思います。

永野委員長 先進事例を調査していただいて、必要な措置を各所管課と協議をして進めていただきたいと思います。

それでは、ほかにございませんか。久保さん。

久保委員 今回の児童館型の子育て支援センターについて補足なんですけれども、私は高津区で初めてこ文が運営している母体ではなくて、子育て支えあいネットワーク満という法人でもない団体がそこを運営することができまして、その事例というのもすごいことだと思うんですね。国の委託事業を川崎市が公募して、法人でもなく、地域で活動しているグループに運営を任せる、委託するというのは本当に素晴らしいことだと思っていて、私も知り合いがいましたので、そこで週3日開催しているうちの1日を手伝わせていただいているんですけれども、こ文の利用がもともとは小学生対象につくられて、学童とかもやられていたということもありまして、最近ですよ、児童室とか乳幼児向けに内装とかがやられてきたんですけれども、私がびっくりしたのは、もともとそうやってあった児童室、乳幼児向けに平日の午前中は使っているんですよとアナウンスしている児童室なんですけれども、地域子育て支援センターですよとアナウンスをただけで、毎回10組だったり、少ないときは四、五組の親子が来るんですね。だから、建物自体は同じなんですけれども、そこを子育て支援センターですよ、乳幼児が来ていいですよと、担当がいるんですけれども、そうやっただけで普通の親子が来るというのにすごくびっくりしている状態です。こ文も使えますよと言うだけではちょっと足りないなという部分と、あとは私、すがおにもよく顔を出しているので職員の方が土曜開所についてすごく苦労されているのも知っていますので、そこら辺、いろんな地域の力があると思いますので、そういう形で連携できてうまくできるような仕組みを宮前区だったら宮前区なりの仕組みができていけばいいなと思いましたのが1点。

あと別なことで、「歳時記みやまえ」なんですけれども、ここに土橋神社の夏祭りが載ってまして、夏祭りは夜店が出ないんですけれども、秋祭りは夜店が出るんですね。子ども会も協力してやっているのですが、友人が多分このチラシを見てだと思っただけなんですけれども、土橋神社の夏祭りって今まで公開されていなくて知る人ぞ知るといっただけだったんですけれども、友人が夕方ふらふら行って、土橋神社でお祭りがあるから夜店が出るだろうと思ってうろろしていたんですよ。ということは、多分この「歳時記みやまえ」を見て来たんだなと。だから結構見る人は見ているんだなというのが実感と、盆踊りも各地区一斉に載っているのすごく便利だと思いますし、今

度運動会がありますよね。ぜひ親子運動会も——実は町内会に入っていない人たちもいたりするんですけれども、でもだれでも来ていいですよという形で町内会のほうではやっていると思うので、また運動会も載せていただけると町内会も盛り上がっていいかなと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

永野委員長 ありがとうございます。事務局のほうで何かコメントはありますか。

事務局（岩佐） 「歳時記みやまえ」はことし4月からの発行ですけれども、毎回区民会議の部会のほうでも、情報をいただけませんかということをお願いしつつ、その際皆さんからいろいろアイデアもいただいているのですが、情報がなかなか集約し切れない部分もありますし、また紙ベースですと即時性がなかったりとかそういう課題も一方で見えてきたりもしていますので、ここら辺については区の内部でも情報の集め方、発信の仕方など紙ベースでもいいですし電子ベースでもいいのかもかもしれませんけれども、そこら辺を含めて、求められている部分が多いのかなと思います。私どもでも検討させていただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

永野委員長 また秋の行事に向けて皆さんの情報をどんどんお寄せいただきたいと思ひます。そのほかよろしいですか。

宇賀神副委員長 地域防災のことで1点、宮前区の防災推進員の件でございますけれども、たしか2月に第1回目を開いて、ことしは7月。2月のときはたしか50名の定員をオーバーして、大分待ってもらった人もいるのではないか。ことしは7月25日、26日と盆踊りに忙しいシーズンとはいえ、人数的にちょっと少なくなっている。これは忙しいというより、第2回で早くも下火になりかけているのではないかという気がするんですね。

この防災推進員というのは次世代のリーダーを育てようという目的で、各防災組織の中から興味を持って来ているというよりも、どちらかということはおまえ、ちょっと行って勉強してこいという人が多いと思うんですね。そうすると、若い人がその対象になる。若い人は働いていて、土日せっかく休めると思ったら、土日2日続けて講習会に出てきてくれというと、大分ハードルが高くなってしまっているのではないか。決して悪いことではないし勉強はしたいんだろうけれども、それよりも時期をずらしてやるとか、1日で済ますとかというような何か工夫をしていかないと、せっかくやる気が出てきたところの芽を摘むような形になってきてしまうと、ちょっと問題かなと思ひました。その辺、何かコメントがあればと思ひました。

地域振興課主幹 地域振興課の小佐野と申します。私からお答えさせていただきます。

今回の宮前区防災推進員養成研修ですけれども、副委員長が先ほどもおっしゃられましたとおり、時期的に7月25日、26日で夏祭りの真っ最中ということで、かなりの方がそちらの手伝いとかで忙しいということで、ほかの方に出てくれないとか言われて来ましたという方も結構見られました。また、2日間にわたってやりますので、

しかも土日ということで2日間丸々出られない方もいらっしゃるということもお伺いしております。

ですので、次年度以降は、昨年度から引き続き行っている養成研修ということであり内容は変えられないと思うんですけれども、2日間の内容をなるべく1日にして、1日の時間が少し長くなってしまいうんですけれども、1つの講座をちょっとコンパクトにするとか、そういった調整をいたしまして1日で開催できないかということも検討してまいりたいと思っております。

また時期的なものも、7月25日、26日ということで今回はちょうど夏祭りの時期だったんですけれども、もう少し早い段階、7月の上旬ですとか、できれば6月の下旬ぐらいには準備をしまして開催したいということも考えておりますので、そのようなことでなるべく多くの方に参加していただくような形をとりたいと考えております。

恒川委員 今の宇賀神副委員長の絡みですが、宮前区76団体のうち、これで何団体が参加し終わったのか、わかっただらば教えていただきたい。それが1点。

それから2点目は、9月1日に防災訓練がありますね。市が責任を持ってやらなければいけない。宮前区は1000人集めるということのようでしたが、何名集まっているのか。

それからもう一つは、それに絡んで、7月に各町会・自治会で参加者名簿を行政に出したんですけども、間があいていますので、当然9月1日の10日か15日くらい前に町会・自治会に忘れないようにしてくださいねというフォローが必要なのではないのかと思うんですが、その点いかがでしょうか。

地域振興課主幹 まず第1点目の今何団体が参加ということなんですけれども、すみませんが、きょうは詳しい資料を持ってまいりませんでしたので、この場でお答えできませんが、ただ、まだ100%の団体に参加はさせていただいておりませんので、来年度以降出ていないところはなるべく出ていただくということで強く依頼をしていきたいと考えております。

それから2点目の9月1日の防災訓練ですけれども、総務局から500人の依頼に対して、現在宮前区からは約350人の参加をいただいております。宮前区の8カ所のバス停からバス11台で東扇島東公園まで行っていただくということなんですけれども、バス停等まだ完全に固まり切っていないところもございますので、その辺が固まりましたら、もう一度参加される皆様にはお知らせをして、9月1日はぜひ出席してくださいということで考えておりますので、よろしく願いいたします。

目代委員 それで7月25日、26日にあったということで、第1回目のときは区民会議の方たちに皆さんお知らせがあったんです。そのとき受けられなかったものですから、ことは受けたいと思っていたら、いつの間にかここに出ていたものですから、第1期のときも地域防災は部会もしないで区民会議委員全体で考えたものだと思うんですね。

そういう意味で、区民会議の今の方たちにも、第1回目で受けられていない方もいらっしゃると思いますので、ぜひご通知のほうをよろしく願いいたします。

地域振興課主幹 わかりました。次年度はそのようにさせていただきますので、よろしく願いいたします。

鈴木（和）委員 今回の防災の件ですけれども、文化協会のほうにも要請がありますけれども、もう少し早い時期に要請をしていただきたいなと思うのと、これは年に2回ぐらいしていただけないか。こういう忙しい時期じゃないときと言ったら大変あれですけれども、ないのかなという感じで、うちあたりも参加しなかったと思います。

今度の川崎市のほうは私も参加を出したんですけれども、350名は、それ以上は何名ぐらいの予定で区のほうは考えておられるのでしょうか。文化協会からは1人だけということですよ。何名とは書いていなかったんですけれども、まだ参加できるのかなと思って今お聞きしているのですが。ただ、350名もお集まりになっているというから、何名ぐらいで締め切るのかなということでお伺いしております。

地域振興課主幹 私ども地域振興課のほうでは自主防から推薦をいただきまして、特に上限は設けないで、希望される方ということで今回参加の申し込みをさせていただいたんですけれども、それとは別に、各団体様に来賓ということで依頼しておりまして、それが各団体1名ぐらいということで依頼をさせていただいておりましたので、そういう関係で1名ということになっていると思います。

鈴木（和）委員 では、男性ですけれども、お1人参加したいという要望があるのですが、そちらのほうに申し込んでもよろしいのでしょうか。文化協会です。350名もだから大変だなと思いましたがけれども、ではまた振興課のほうに近々用事があって参りますので、そのときにお伺いいたします。

地域振興課主幹 人数的にはまだ大丈夫でございますので受けさせていただきますと思います。

鈴木（和）委員 ありがとうございます。

永野委員長 では、防災推進員のほうはよく連絡網をとっていただいて、特に区民会議の委員にも連絡が来るようにお願いします。防災ニュースなども区民会議の委員にも送ってください。よろしく願いいたします。

(2) 専門部会の審議状況について

ア 公園・地域づくり部会報告

永野委員長 それでは、時間も限られていますので、次に進みたいと思います。専門部会からの報告ということで、まず最初に公園・地域づくり部会からお願いします。佐藤部会長、よろしくお願いします。

佐藤委員 皆さん、こんばんは。この場に立つと緊張して早口でしゃべるので、わからな

い部分が多いかと思うんですけれども、また後で質問をお受けしたいと思います。

5月の全体会から2回ほど部会を開催しました。まず最初に、この場をおかりしてなんですが、2回目の部会の前に1回部会を設定していただいたんですけれども、私の体調管理の不足で1回違う日に設定していただくことになりました。皆さんにご迷惑をおかけしてすみませんでした。

まず6月の部会ですけれども、プレイパークの必要性について話し合いをしました。それがどこから来たかという、区民会議を進める中でアンケートを区民の方々にいただいたんですけれども、その中で公園で火を使えたらいいとかというお話が多く見られたので、火を使えるということと、子どもの遊び場が少ない、規制がたくさん出ているという観点からプレイパークの必要性について話をしました。

実際に、前回の全体会でもお伝えしたのですが、区民会議から4名ほど横浜のプレイパークに見学に行きました。そのときにたくさんの資料をいただいたんですけれども、その中の一つが皆さんのお手元にあるこちらの横浜市内のプレイパークという案内になっています。

時間がないもので詳しくは説明できないのですが、ここのプレイパークの様子を見ていてもそうなんですが、プレイパークというのは単なる子どもの遊び場というイメージがあるんですけれども、それだけではなく、地域の方々のべいごまを教えてくれる男性がいたり、料理づくりを教えてくれる男性がいたり、大人が自然と溶け込んでいて新しい地域のコミュニティの拠点でもあるということがわかりまして、そのことについて話し合っ、プレイパークについては必要性があるというお話が出ました。

横浜のこのときは、宮前区のプレイパークで活動している山岡さんにも来ていただきまして、プレイパークを続ける中で問題点というか、大変なことをお伺いしました。横浜でも宮前区でもそうなんですが、まずただ単にプレイパークと言ってやっているだけでは住民への理解がなかなか得られないということで、きちんと認められた団体であると。どうしてプレイパークとして活動する必要性があるのか。必要性に応じてやっているんですよと、大もとの区役所であったり公の機関から認められた活動であるということと、予算のこととかがあると、とても活動を続けるのに助かるというお話がありました。

それについては、まずここでは受け皿をつくろうかという話だけにとどまっています。その中で新たに出てきたのが、宮前区ではプレイパーク以外にも公園を利用したコミュニティを実際に活動しているところがある。もちつきであったり、イモ煮会とかいろんな活動なんですけれども、そのようなコミュニティを広げるための活動もあって、その活動についても支援できるようなものをつくったほうがいいのではないかと、宮前区版のプレイパークという提案が出ました。

あと私自身もそうなんですけれども、プレイパークという言葉があると、どうしても子どもというイメージがあって、私の中でのみ込むまでにすごく時間を要して、頭が混乱してしまったのですが、そういうこともありますので、プレイパークという名称ではなく、新たな名前、名称が打ち出せるといいのではないかとということで、6月23日は部会を終了しています。

それで3回目、7月28日、具体的な課題解決策についてということで話し合いを行いました。まず1点目は、宮前区公園遊びの日を設けたらどうかということをも前回の全体会の際にはお話ししたんですけれども、今のところ具体性がないので、公園の日を設けても、実際にいろんなスタンプラリーであったりディスカバーウォークとか写真コンテストとか公園体操とか、いろんなところの既存の活動をとるところまでは話し合いがあったんですけれども、では実際、具体的に引き受けてくれるところがあるのかという話が出ました。提案するからには具体的に実行されるということまで話し合わないと言葉だけができるしまうということになりますので、具体的に引き受けているところを探しましょうということで、まずは公園部会の中で宮前区の公園の遊びの日というのを実施に向けて話し合いをしていますということで、事務局のほうで書面をつくってくれたのですが、その公園の日についての説明書きがあって、実際このようなことを行ったときに皆さんの団体はどのようなお手伝いができますか、どのようなかわりを持てますかというものをつくりまして持ち帰っていただいて、次回の部会の際にまたそれを持ち寄って話をしましょうということになっています。これにつきましては今まで公園部会のほうだけでするので、皆さんいろんな団体から来てくださっているもので、きょうもしご興味のある方がいらっしゃいましたら、事務局のほうにご連絡いただけましたら、事務局からこの案について皆さんにお渡しすることができますので、持ち帰って、また事務局のほうにご報告をしていただくと大変助かります。

次ですけれども、宮前区版プレイパークの推進ということで、もうちょっと具体的にプレイパークについて話し合いましょうということです。その中で必要なのは、ルールづくりということも大切ですが、どういうルールかということ、地域合意を得るのがすごく大変ということで、地域合意を得るための支援であったり、活動しやすいような支援の仕方について、要綱とか行政に実際にかかわる人、あと地域の方々に募集をしてプレイパークルールづくり委員会——今は仮なので、必ずしもこういう名称ではないのですが、地域コミュニティを広げるような活動を推進していける、手伝っていけるような動きやすい要綱をつくっていきましょうということです。

あと、これはプレイパークのことなんですけれども、プレイリーダーの要請の支援とかそういったものをつくってはどうか。また、新たな活動の普及促進についてもこの委員会で話し合えたらいいのではないかとということです。ただ、気をつけなければ

いけないのは、だれでもオーケーということではなく、基準とかも設けなければいけないということがあって、区民会議の中ではここまで推し進めて詳しくというより、地域の方と活動している方が活動しやすいようなものをつくらなければいけないということで、別建てで委員会をつくりましょうというお話です。

次は維持管理、担い手なんですけれども、こちらのほうはちょっと時間が足りずに話が進んでいなく、次回の課題となっています。以上です。

永野委員長 ありがとうございます。今の公園・地域づくり部会の報告ですが、何か質問、補足でも結構ですが、ございますでしょうか。

プレイパークという話が多かったのですが、プレイパークというのは金沢だとかいろんところでやられて、世田谷などでも20年前からやられていて、宮前区でやられているのは20年前の世田谷のを見学して20年間ずっとやってきているのですが、基本的には子どもが自由に遊ぶ。けがとか弁当まで全部、自分の責任で自由に遊ぶ。けがをするのも子どもの権利だという姿勢で、泥んこ遊びだとかちょっと危ないような遊び、昔は自然にやっていた遊びが今、危ない、禁止だ禁止だと公園で絶対できないような状態になっている。そうじゃなくて、我々が昔、ほんの十数年前に自然の中を飛び跳ねて泥遊びをして、ちょっとけがをしながら遊んだ、そういった遊びをちゃんと責任を持って見守りながら自分の責任で遊ぶ、そういう場を公園でやっていこうと。それを宮前でも公に認知してほしい。20年間続けてきているんだけど、あんな危険なことをやっているとか、勝手にやっているとか、近隣からは白い目で見られたり、なかなか自立していけない。それをこういう遊びだって責任ある団体が責任を持ってやっているのだからいいのですよと、そういう認知の場として宮前区版プレイパークという仕組みをつくってほしいということが1つです。

それをちゃんと実現するためには、ルールづくりだとか見守り隊だとかいろんな協力隊が必要なんですけれども、まずみんなでちゃんとそれを認知する、そういう遊びが必要なんだ、子どもの権利なんだということを認知するところから始める必要があるということです。

あと公園遊びの日。公園を使っている人たちが、公園でこういうことがやられているとか、こういう遊びもしたいなと思っても自分ではできないとか、みんなばらばらで自分中心に遊んでいる。それをそうじゃなくて、横の連携をとりながらとか、子育てのグループと高齢者の公園体操などを結びつけるとか、いろんなことを公園で利用できる、公園の可能性というのをもっとみんなに知ってもらおうということで、そういったところで公園遊びの日をつくって、各団体が公園でいろんなことをやっているのをそういった日に合わせて公園の使い方の可能性をもっと広げていこう、そういう提案でございます。

ただ、行政がそこに予算をつけて公園の遊びの日をやるには、それを受け皿として

やってくれる団体が見つからないとなかなか予算化できないということなんですね。それは各団体、我々でちゃんとやっていけばできるのではないかと思いますけれども、行政が予算化するに当たって受け皿がはっきりしないものに予算化できないという課題があるということです。その辺は解決しなければいけないと思います。

あと昨年からやっています公園の掲示板による情報発信とか、A3の議論ペーパーの一番最後の具体的な課題解決策に書いてありますけれども、掲示板の情報発信とか活動の情報発信。それからコミュニティのきっかけづくりについては公園遊びの日。自由に遊ぶということでプレイパーク関係ですね。そして維持管理、運営の担い手ということで、運営の担い手については、遊びの企画をつくったり、ちょっと遊びの手助けをしてくれたり、そういった仕組みが必要ではないか。公園緑地管理運営協議会がただ掃除だけをやる役回りではなくて、もう少し公園の遊びの企画、コーディネーターができるような仕組みが必要ではないかということ、そういったことを提案していこうということです。

何かほかから質問とか提案はございませんか。

千葉委員 「みやまえぼ一たろう」をやっております区民会議委員の千葉と申します。以前に公園部会のほうで、宮前区内の各公園について、よいところ悪いところ、特徴とかをまとめた表をつくっていただいたと思うんですけども、それを前に成沢さんにいただいて、「みやまえぼ一たろう」の公園情報というところにちょこちょこことアップはしていて、まだ一部しかできていないのですが、主にいいところを掲載して、結構詳細に悪いところ、暗くて危ないとか、利用しにくいという点まで書いてあって、いきなり悪いところをクローズアップしてしまうとなかなか利用者が行ってくれない、公共のサイトとしてどこまで取り上げていいのかと悩むところもありますので、その辺、事務局のほうとも相談して、どういった形で掲載するかというのも考えていきたいと思っています。

あとは、ただ公園の静的な情報をアップするだけではなくて、イベント情報だったり、例えば春だったら桜が咲いてきましたとかリアルタイムの情報も流せるように、そういう仕組みになっていますので、その辺、どうやって利用するかというのを公園部会の皆さんのほうにも今週中ぐらいにはメール等でご連絡できればなと思います。

永野委員長 ありがとうございます。千葉さんには区民会議の委員として情報発信、ホームページの活用ということで頑張ってもらっています。区民会議からのこういう話が、まちづくり協議会だとかそういったところにも行って、いろんな地域のイベントの情報をどういうふうにホームページに載せていったらみんなに伝わっていくか、各団体が千葉さんのところのホームページをどういうふうに利用したらうまく話が伝わっていくか、そういったことに対していろいろ協力をいただいています。相当一気

に情報発信の場が広がっていくような感じはしています。大いに利用していただきたいと思います。

鈴木（恵）委員 プレイパークの必要性の一番上のところに「プレイパークは、単なる子どもの遊び場ではなく、新しい地域コミュニティの拠点である」という、もちろんそれが一番の目標なんだと思いますが、実は一番最初の高齢者福祉のところに、公園体操の拠点が公園の中に30カ所、もう既に活動が始まっているという、かなり大きな活動が住民主体で始まっているんですね。それと、せつかくのプレイパークをみんなで支え合おうということになると連携が必要なのではないかと考えます。これから65歳以上の方たちが地域で何が自分たちができるのかということを実際に考えているときに、子どもにかかわることですとか、公園で体操をやるだけではなくて、そこをコミュニティの拠点とするのであれば、ぜひ若い方たちからの声かけだとか、何かをやるときにぜひ地域全体に呼びかけるようなことを念頭に置いていただけたら、もう少し発展とか広がりがあるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

永野委員長 ありがとうございます。特に子どもの遊びをやっている人たちからは、別に遊びを手伝ってくれなくていい、そばで見えてくれるだけでいいという、まさに公園体操などを行っているお年寄りの方々がそばで見えてくれる、そういう役割、ネットワークがこれから必要だろうと思います。そういった企画をしたりプレイリーダーに結びつけるような、遊びのコーディネーターをしてくれる、そういう仕組みも必要だろうという話が出ています。

そのほかよろしいですか。

では、今出ました意見は部会の中で生かしていただきたいと思います。

イ 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会報告

永野委員長 では、時間の関係もありますので、次へ行きたいと思います。

次に、宮前区の宝さがし部会について部会長の高木さんよりお願いいたします。

高木委員 こんばんは、高木です。宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会では、全体会議以降、先ほどと同じように2回ほど行われています。第2回部会は6月25日に行いまして、我々の部会も具体的な課題解決策ということで絞り込みの作業を進めています。この第2回部会では主にマップづくりの手法や形式ということで、具体的にはグリーンフォーラム21みやまえとか、平瀬川流域まちづくり協議会で行ってたマップづくりの事例を勉強してきました。また、それと同時にカルタづくりとしては、野川カルタというのは皆さんご存じだと思いますが、それ以外にもう少し具体的に先進的な事例はないかということで、群馬県の上毛かるたというものを取り上げてみました。このカルタはかなり地域に根差したカルタで、人物とか、あるいは地域の文化とか歴史をカルタにしたものを主に小学校の時代にたくさん利用しているということ

で、小学校でカルタ大会をやったり、これがすごく大きな要素を占めていまして、大人になってもほとんどの方がこの上毛かるたは皆さんがご存じだということで、この辺に第2回部会の中では目をつけまして、大人も子どもも一緒になってできるものは何かということで、このカルタづくりをもう少し突っ込んで勉強していこうということです。そのカルタをつくっていく段階で恐らく宝を探していくことになるので、その先にマップづくりがあるのかなということで、まずカルタづくりを取り上げていこうというのが第2回部会の中心になりました。

これを踏まえて、7月9日に第3回部会を行っています。この中では、では、そういったカルタをいつまでにつくるのか、つくったカルタはどういうふうに広めていくのか、カルタはだれが使うのかという話を進めていきまして、この中では特に目標にする、あるいは目安にする時期とか段階はどういうふうにやっていくのかということで、長期的なプランも考えていかなければいけない。それとまた、実際にカルタはだれがどのように使っているのかということで考えていったときに、平成24年に区制30周年という節目が宮前区に来ます。それを目指して、そこまでカルタを各地域でつくっていったらどうだろうか、そういった話が部会の中でありました。

また、このカルタづくりはどういうことを対象にするかということで、当初は大人を含めていろんなカルタがつかれるのではないかと話があったのですが、さきの上毛かるたの話を踏まえて、対象を小学校の児童にしようではないかということで、ターゲットを小学生に絞っていこうということが第3回の部会で話し合われています。

こういったことで、区制30周年なり対象を小学生にしたことで具体的に少し見えてきたということで、これを踏まえたものがA3の議論ペーパーのほうになります。この中の主に右側になるわけですが、最終的にはこれを宮前区の宝、あるいは顔ということで推し進めていくわけですが、そういったことは右側の一番下の部分になってくるのですが、その前にちょうど真ん中、カルタづくりを地域に広めていこう、あるいはマップづくりはオプションとして、先ほど申し上げたようにカルタをつくっていく、そのための宝を探していく段階で最終的にはマップもつくられていくのではないかと。そういったものをまとめたものが議論中の右側のものになります。

宝さがしのほうでは、これを踏まえて次のA3になりますけれども、具体的にはここまで宝さがしのほうは進めてまいりまして、提案としては区制30周年に向けた地域資源のカルタ、「宮前区の宝物カルタ」というものを制作していこうということで、話がだいぶ詰まってきました。

この中で、真ん中の資源の発掘・共有のプロセスの左側になりますけれども、こういった形でカルタづくりを主にメインとして取り上げていこうということで、これを踏まえて、右側の一番下になりますけれども、資源を集めるということで、各地域に

市民活動経験者を核とした実行委員会を立ち上げていただこうと。その中には当然、PTAなり子ども会なり、あるいは地域の自治会などを含めて、そういった実行委員会を立ち上げて、それと小学校の児童さんなり先生なりを巻き込んでカルタをつくっていこう。それが1つ上に上がって、最終的に具体的にこのカルタができ上がった時点では、絵札を含めてプロにも参加していただいてもう少しまとめ上げるものという形で実際のものにしていこう。

これを利用していくような場としては、最終的にはカルタ大会なり、あるいはそれを使ったウォークラリーなりスタンプラリー、また完成したものを我々としては今やっていますのは中学校区8校区を目指していますので、そういったもののお披露目しながら、地域の対抗、そういったものを使って広めていこうということをやりたいということを目指しています。また、最終的に8区から集まったものを網羅して、それをたたき上げて宮前区の顔に押し上げていこう、それが最終的には区制30周年の事業の一環としてあればいいのかなということ、将来はそういったものを地域でも使いながら、宮前区全体としても使っていこうという大きなカルタ大会ができればいいのではないかと。現在はその段階を含めて実行委員会の立ち上げとか、将来の使い方、あるいは区制30周年に向けての具体化ということで今後の委員会はそれを進めていくような形になると思います。以上です。

永野委員長 ありがとうございます。今の説明について、補足、質問はございませんか。

久保委員 カルタの作成のときに8地区（中学校区）ごとという単位で考えていらっしゃるようですが、それは地域教育会議との連携とかという形になるのでしょうか。地域教育会議というのは、町内会とかPTAとか多分全部入っていますよね。

鈴木（和）委員 今、ときめきの部会は物すごく張り切っております。私は特に張り切っているんです。なぜかという、観光協会から出ておりますので、このカルタができたら観光協会としては大変助かりますし、ぜひ30周年までにつくり上げて、観光協会として全区、全市、全国に宮前区観光協会の名の届くようにしたいという考えで今物すごく取り組んでおります。一度うちの部会に出てみてください。本当に楽しいです。張り切っております。区政のためにも頑張ろうということで私たちは活動しております。

私も観光協会に入りまして第2期になりますけれども、今度、川島さんが観光協会の会長になりましたので、商店街を中心にした観光協会がどこの地域でも活動しておられますので、その方面においても会長がかわって、また違った面で宝を探しながら観光協会の活動を目指していきますけれども、何しろこのカルタというのが絶対観光協会に必要だなと。笑っていますけれども、本当なんです。それで一人でも多くの人の会員募集にも役立つんですよ。そういうことで今取り組んでおりますので、ど

うぞいい知恵がございましたら皆さん教えていただきたいと思います。

永野委員長 心強い意見をありがとうございました。先ほどの久保さんの質問に答えましょうか。8中学校区というのは広さの単位で、宮前を8つぐらいに分ければ、ちょうど動きやすいだろうと。顔の見える関係で動けるだろうと。ここにあるように、実行委員会を立ち上げるというときに、中学校教育会議が核になってくれればそれが一番いいんだと思うんですね。ただ、別に中学校区の教育会議に限ったことではなくて、その中学校区の中で本当に核になるような団体があれば、そういったものを中心にして中学校区単位での実行委員会を立ち上げてやっていこうということです。

高木委員 そのとおりですね。地域教育会議が核になっていただくところもあれば、いろんな実行委員会の中心の核となる団体というのがあると思うんですが、地域教育会議だけに丸投げする形ではなくて、それを踏まえて新しく実行委員会をつくっていただきたいというのが、この部会の考え方です。というのは、もともとは参与との懇親会の中でも、地域の宝で、なるべく張り張りのきいた地域ごとの良好な差別化ができないかということが一つ、そういった提案もあったものですから、それも踏まえて、ちょうど8区になりますと、それぞれにかなり絞られたカルタができ上がってくると思うので、これがどこを切っても金太郎あめではなくなるということが非常に大きな特徴ではないか。そこから持ち上がったものが、もう一つ段階を踏まえると、今度、宮前区の全体としてとらえれば、そこからまた幾つか上がってきますので、よりいい、顔に近い宝物になっていくのではないかと考えています。

松井委員 今非常に楽しみな意見が出て、鈴木（和）さんの話を聞いていると、すぐにもできちゃうような感じなんですけれども、実際にこれを推し進めるということになりますと、僕は委員の一人として、とりあえず小学校に投げかけて始めたかどうかということで、そのときはアイデアがわいたんですけれども、いざ実際に本当にできるかなと考えると、非常にプレッシャーというか、いろんな問題がありますね。

というのは、この前、専門部会の中では一つの事例として、なぜ小学校にとりあえず振ってみようという話になったのかというと、河井さんの事例で、宮前平小学校でやったら、実際にこれは地域の宝物というよりも、緑とか花とかこういったことをテーマにして子どもたちにカルタをつくってもらったら、作品が子どもの感性ということで非常にすばらしいものがある。大人が普通、ただ花を見ているというところと違って、すばらしい表情を伝える言葉がある。ぜひこういうものを発揮できる場を与えたいと思ったのですが、宮前区のカルタとか地域のカルタとなると、その情報が今言った花とか草とかそういうものだけでいいのかなとなりますよね。地域の宝物で歴史もあるし、もっとまちの要素というのはいいものいっぱいありますね。そういうものが実際に子どもたちに伝わっていないと、それはなかなか歌として詠めません。それをどう情報を与えながら子どもたちの力を引っ張り出していくかというところが非

常に難しいのではないかと思います。宮前平小学校でやった事例はたまたま花とかと
いうところにテーマが絞られていたので、非常にいいカルタができていたのですが、
これは本当に鈴木（和）さんが期待するような、そういう観光協会にも役立つような
カルタとなると、そう簡単には行かないなと思うんですね。

だから、僕も否定するわけではないのですが、その進め方を今後の専門委員
会の中でも慎重に議論してやっていかないと、なかなか難しいなと。先ほども出まし
たけれども、地域教育会議とかPTAに丸投げすればすぐできるものでもなさそうだ
し、実際にそういう地域情報をよくとらえて、地域をよく知って、そういうものが子
どもたちの表現の中でどうなってくるかというふうにならなければいけないと思うの
で、大人の役割、世話役とか学校との一つの協働という問題も、学校は授業が実際あ
って、これはプラスアルファのことになりますから、学校の総合学習などにも取り入
れてもらいながら進めるにはどうしたらいいかという学校との相談も、かなり親密に
やっていかないと、そう簡単にはできないのではないかと思います。

ただ、そういう問題をクリアしながら進めて、ぜひ少しでも我々の夢が実現できる
ようにしていければなと私は思います。

永野委員長 ありがとうございます。ほかの方から。

目代委員 私は宮崎中学校区なんですけれども、宮前区は宮崎小学校1つなんです。そ
ういうときに中学校区、梶ヶ谷、西梶ヶ谷とかは抜きにして宮崎小学校だけでやるよ
うになるんですね。私の頭の中には、実際にどうやったらできるだろうかと、すご
く楽しく考え始めたんですけれども、具体的に動かすときに、そういうところも課題
としてまだたくさんあるんだなと思いましたけれども、すごく楽しいものができれば
いいなと思っています。そこもよろしくお願いします。

鈴木（恵）委員 野川カルタを皆さんご存じだと思いますが、あれをごらんいただくと非
常によくできているんです。あの野川カルタは、野川の歴史が手にとるようにわかる
というような本当に財産だと思っています。やっぱりどこに焦点を当てたカルタにす
るかということがとても重要な視点で、例えば宮前の歴史を後世に伝えるようなカル
タにするのであれば、それに焦点を当てたような取り組み、例えば歴史や昔のことか
ら、今あるような行事がどういうふうになっているのかということまでも含めた視点
が必要だろうし、そうではなく新しい宮前を表現するのであれば、また違う子どもの
視点だとかそういうものも入ってくる。余りばらばらになっていくと、カルタ自体が
統一ができなくなってくると思うので、どういうふうな視点を持ってやるか。例えば
観光協会だと、やはり歴史を土台にしたものになるだろうし、その辺は考えてつくっ
たらいいかなと私は思いました。

河井委員 宝さがし部会の河井です。先ほど松井さんが宮前平小学校というお話でしたけ
れども、宮崎台小学校なんです。宮前平中学校区は小学校が3校、土橋小学校も入

りますと4校と、人数が物すごく多くて、宮崎中学校区と反対の悩みがきつと出てくるかもしれないと思うんです。

私、総合学習で宮崎台小学校の4年生に試しに、カルタづくりがテーマではなかったんですけども、もっとすてきな宮崎台というテーマで私たちが活動している地域の活動等に参加してもらって、4年生の子たちが自分たちがどんなことで宮崎台をもっとよくできるかというテーマなんですけど、試しに野川カルタを見せまして、野川にすばらしいこういうカルタがあるんだけど、みんなもつくってみないかということをご提案しましたら、今回は緑をテーマにしたんですけども、感動した後のカルタづくりでしたので、先ほど松井さんから紹介があったように、子どもたちが本当に私たちの想像を超えるようなカルタを短時間でつくってくれて、形を制限しなかったので、今、写真を回していますけれども、表裏に絵と読み札とをつくってくれたクラスもありますし、前面に絵と一緒に文も書いたクラスもありましたけれども、4クラス全員がそれぞれにつくったんですね。それを見ると、こんなにたくさんできたものをどうやってまとめていいのかという反対の不安も出てきたりしますし、先ほどから皆さんがご心配しているようにテーマを決めていくということをしていかないと、なかなかでき上がっていかないのではないかと心配もあります。

でも、小学校の先生に話したところ、カルタづくりというのは非常に興味があると。というのは、もちろん総合学習の分野から入ったんですけども、それもありますし、国語の分野でも役に立つ、勉強になる。それから絵をかきますので図工の面でも、それから歴史とか地域のことを知るということで社会の上でも勉強になる。こういうことを踏まえて学校と連携をとっていけば、テーマを決めてやっていけば、学校も非常に協力的にやってくれるのではないかなという感想を持ちました。

永野委員長 ありがとうございます。持田さん。

持田委員 宮前区地域教育会議、実行委員会を立ち上げるときに委員として各中学校区をぜひ加えていただければと思うんですが、ちょっと細かい話になってしまうのですが、どうしても中学校区によっては、高津区、多摩区ということで小学校が宮前区の中学校区に入っているところがあるんです。でも、宮前区の中で考えればということなんですけど、先ほど言った宮崎小学校でも246寄りの宮崎になると、宮前区なんだけども、そこは小学生がいないんですね。みんな梶ヶ谷、西梶ヶ谷とかそちらに行ってしまうと、宮前区の中の宮崎中学校区の中を全部網羅していない。それは平中学校区でもそうだと思うんですね。だから分けていくときに、そういうところもちょっと考慮して、これから進めていく中で抜けるところがないように考慮していただければと思いますし、それはまた中学校区に声をかけていただければ、できるだけご協力はさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

高木委員 皆さんの意見はそのとおりだと思います。もう一つ、この部会の中では地区に

おろしていく実行委員会とは別に、カルタをつくっていく手前の、最初の統一した考え方とかチラシづくりとか、そういう実行委員会も恐らく立ち上げていこうという話がこれからの部会の中で当然あると思います。

それともう一つは、先ほど鈴木（恵）さんがおっしゃったように、野川ふるさとカルタという立派なカルタがもう既にでき上がって、これは実績として残っておりますので、これを一つのモデルとしてほかの地域にもこういったものを広めて、これがまず一つのモデルになっていくのだと思います。これを勉強して、なおかつ自分たちで地域で宝を探し、それをカルタにしていくという作業に取りかかるような形に今後はなっていくのではないかと思います。

それと、先ほどなかなか言葉が出てこなかったのは、でき上がったカルタを使って地域対抗のコンペなり、あるいは地域の産物などを紹介していくようなものにもこのカルタが使われていくと、より広まっていくのではないかと考えています。

松井委員 カルタの話になると、カルタだけに期待されちゃうんですけども、ここにも書いてありますが、下にマップづくり（オプション）と書いてあるんですね。これはカルタはとりあえずの目標だけれども、マップとかそういったものを並行作業としていろんな膨らみを持って進んでいかないと、それ一つだけがすべてで行こうとすると、地域を知るといのはそれだけで済まないことですし、そのほかにもいろんな今公園でやっているプログラムもそうでしょうし、そういうものが相乗的にレベルアップされていくということが非常に大事だと思っています。

そういう中では、オプションで書いてあるマップづくりということでも、地域からできるような形で地域のいろんなマップができたらいいなと僕は思いますので、そんなものもかき上げできるような方針を立てて、そういうところを意識しながら、とりあえずカルタを目標にというような形で進めたらなと私は思います。

永野委員長 ありがとうございます。カルタづくりをきっかけとして宮前区のコミュニティ、とにかく子どもからお年寄りまでが参加して、各地域ごとで出発して、最終的には区制30周年に合わせて宮前区全体のカルタへ発展させていこう、そしてでき上がったカルタを使ってカルタ大会とかウォーキングだとか、いろんなものにも活用していこうという、宮前区の全員が参加できるようなプログラムに仕上がりかかっているのだと思います。これを区長にお渡しするのに、すべてやり方まで提案されているような、何年がかりで地域から区全体へ、そしていろんな活用の仕方、カルタをつくっていくところでの区民の参加、でき上がったものを利用する区民の参加、いろんなものが入っているんだと思います。今後ぜひこれを実現していきたいと思っています。

河井委員 カルタをつくる前にみんなが宮前区のことをまずよく知ってもらうということがテーマだと思うんですね。それで宝を探して、こんな宝もあったんだということで、ここにもマップづくりがありますけれども、平瀬川のほうですばらしいマップが

できていますが、グリーンフォーラムでも、狭い地域で小さいマップですけれども、宮崎のガーデンめぐりというのをしまして、宮崎台周辺をちょっと歩いただけで、みんな知らなかった、こんなところがあったんだということを再発見したりしたんですね。そういった積み重ね。観光協会でもありますけれども、ああいったところで歴史のある場所を知ったりとか、そういったことでみんなが宮前区をよく知るという作業が大切なのではないかと思います。これを回しますので、よかったら見てください。

永野委員長 そうですね、マップづくり。ウォーキングとか緑だけではなくて、福祉にしろ何にしろマップというのがうまく利用できるんだというのが、この宝さがし部会での途中の提案だったと思います。マップづくりだとかウォーキングだとか、きっかけは野川のカルタから派生していろんなことが発想されてきましたね。途中で出てきたいろんなマップづくりとかウォーキングだとかスタンプラリーだとか、そういったことも利用しながらコミュニティに生かしていただければと思います。

ほかにはよろしいですか。

それでは、またきょうの意見を宝さがし部会の中でまとめていただきたいと思います。

4 報 告

永野委員長 それでは次に移りたいと思います。次は報告事項になります。平成20年度宮前区協働推進事業評価について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（岩佐） 企画課岩佐でございます。私からは報告事項ということで平成20年度宮前区協働推進事業評価についてご報告をさせていただきますと思います。

資料でございますが、右肩に資料4と書いてありますが、こちらの資料をごらんいただきたいと思います。

この資料は、平成20年度宮前区協働推進事業評価一覧表でございます。協働推進事業の評価につきまして、これからご報告をさせていただきますけれども、その後ご意見等をいただければと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

協働推進事業そのものは、区が主体となって区民の皆様の参加と協働により地域の抱えるさまざまな課題解決ですとか、地域特性を生かした事業を実施いたしまして、区における総合的な行政の推進に資するということを目的としている事業でございます。また、区みずからの裁量ですとか創意工夫を反映できる事業となっております。また、予算額については、これは7区すべて統一なんですけれども、各区一律5500万円ということになっております。

今回、平成20年度をご報告いたしますが、平成20年度につきましては、管理運営経費と緊急対応費を除きますと、資料の左のほうにナンバーが振ってありますが、32の

事業を実施させていただきました。事業の半分以上は地域振興課を中心に行っております。そのほか企画課、こども支援室、その他5課ほどで実施いたしました。

こちらの協働推進事業については、従前は区政推進会議というものがございまして、この場をもちましてチェック機能等をお願いしていたところなんですけれども、現在は区政推進会議が発展的に解消されたということで、この区民会議の場を活用させていただきましてご報告をさせていただくとともに、ご意見をいただきながら、今年度引き続き事業を展開していくものも当然ございますし、現在、22年度予算要求に向けた作業も行っておりますので、このようなことを踏まえましてご意見をいただければと考えております。

まず、平成20年度全体的な特徴としましては、安全・安心に力点を置いた事業計画を立てたことと、第1期の区民会議から、はじめの議題のところでご説明させていただきましたが、こちらの提案を受けたものの中から事業化した、あるいは拡充したというものもございます。

それから表についてですけれども、これは少々見づらい表になっておりますので、こちら辺の見方についてご説明いたします。まず1ページ目のところを見ていただきますと、最初にナンバーを振っております。それから事業名、事業の目的・内容、開始年度、予算額、追加の予算額、最終的な予算額、現在の決算見込額ということになっております。次に最終予算額と決算見込額の差額がその右の不用額になります。さらに事業の成果、次年度以降の事業計画、具体的な展開方針。この場合、終了するものもございますので、終了する場合はその理由を記載します。それから優先度、担当課という形で作らせていただいております。

お手数ですけれども、最終ページをご覧ください。資料の最終ページのところでございますが、右から2番目の優先度をA、B、C評価をしているのですけれども、この優先度の考え方を最終ページの下の方の欄に記載させていただいておりますので、これについてご説明いたします。

優先度は、各ページにそれぞれ優先度A、B、Cの記載がありますが、Aが優先度が非常に高いということで、これについては区民会議からの提案を踏まえた事業で、最初の数年間において重点的に行う必要があるもの。もう1点、総合計画、その他行政計画等に位置づけられており継続して行っていく必要のあるものがございます。それからB、これは高いというものでございますが、区民会議からの提案を踏まえた事業で、数年たって安定的な運営となり、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく必要のあるもの。もう1点、これまで継続して行われてきている事業で、地域にとって一定のメリットがあるため、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく必要があるものがございます。Cとしましては、AとBに当てはまらない事業、今後、終了が見込まれる事業というものでございます。それから20年度で終了し

た事業については斜線という形で記載させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

また評価、A、B、Cはどうつけているのかということでございますが、これについては基本的には事業所管課を中心に、区役所内で企画調整会議等を行い、その中で自己評価といいますか、セルフチェックを中心に行っていくものでございまして、広く市民の皆様にごこうした情報を提供しながらご意見をいただくということで作成したのになっています。

それから、最終ページの中で1点説明させていただきたいところがございます。事業全体の執行状況についてということで、最終ページの中ほど下に合計の欄があるかと思っております。今年度、先ほど予算は各区一律5500万円だというお話をさせていただきましたが、決算見込額は4492万2465円ということで、不用額が1007万円余り出る形になっています。執行率で言いますと81.7%の見込みでございます。この点もございしますので、個別事業の説明の中では不用額が多く生じた事業についてその理由も説明させていただきますので、よろしくお願いいたしますと思っております。

それでは、改めまして資料の最初のページにお戻りいただきたいと思っております。各事業については、本来ですと一つ一つ詳細にご説明させていただければと思っておりますが、時間の関係もございしますので、概略を説明する形で進めさせていただきたいと思っております。

まず1番のところでございますが、安全で快適に暮らすまちづくりというという表題がついていますが、これは市の総合計画における基本施策に合わせる形で分類をしております。20年度は7つの分類を持っております。その中で1番目の分類の中では4つの事業を行ったということでございます。

まず最初の安全安心まちづくり推進事業ですが、これは行政機関との連携協働によって防犯、防火、交通安全などの推進を図るというものでございまして、成果のところにお書かせていただきましたが、前年度に引き続いて小中学生ですとか地域団体、関連企業との協働によりまして、第三梶ヶ谷トンネルの壁画の制作等を行いました。また、防犯ベストの関連用品の貸与なども行っております。こちらの事業は不用額がかなり大きくなってございまして、365万円余りになってございますが、これは理由がございまして、この事業は企業と一緒に協働実施したのですが、地域の企業の方から、壁画を制作するに当たって原材料等の提供を受けたということで、その部分が不用になったということでございます。

それから2番目の事業でございますが、これは区境とか市境を越えた安全・安心まちづくり事業ということで、宮前区の安全・安心まちづくり推進協議会とか、子ども安全・安心協議会を中心として、警察や関係団体と協議を行いながら、区境や市境の防犯のすき間をつくらぬような取り組みを行ったということで、20年度は高津、都

筑、青葉区と協議を行いながら5回の合同パトロールを行っております。

3番目の子ども安全・安心見守り事業につきましては、子どもを犯罪から守り、登下校時における子どもの安全を確保するということを目的に、ここに書いてありますとおり、協議会の開催ですとか、安全・安心通信の発行ですとか、マップづくりへの支援を行いました。

それから4番目でございますが、これは区民会議課題ということで、最初のところでもお話しさせていただきましたが、防災意識普及啓発事業ということで、区民一人一人に防災に関する知識を根づかせ、防災意識の向上を図るということで、防災フェアとか防災ニュースの発行、また2日間にわたって行いました防災推進員養成講座等を実施させていただいております。優先度としましては2、3、4番の事業についてAということでつけさせていただいております。

続きまして、大きい項目で2番目の幸せな暮らしを共に支えるまちづくりですけれども、5番の高齢者健康づくり支援事業も区民会議からの課題ということでの事業でございます。先ほど公園体操のお話をさせていただいておりますが、その支援事業でございます。先ほど申し上げましたとおり、箇所数がどんどんふえているということ、それから今後マップづくりを行うということで事業を進めております。

資料を1枚おめくりください。6番目はしあわせを呼ぶコンサートということで、これは音楽を通じて障害者と健常者の相互理解と交流を図るということで、障害者福祉施設、作業所に通う人たちによる合唱と、ゲストによるコンサートをやっております。こちらは去年の9月に実施をいたしました。

次に3番目の分類ですが、人を育て心を育むまちづくりでございます。こちらについては7番から9番目は子ども関係の事業でございます。いずれも区民会議の課題から出てきている取り組みでございます。はじめの取組状況の報告とダブる部分がございます。

7番目の子育て支援事業としては、かわら版の発行をしております。他の各関係機関との連携もこの中で行っております。

8番目の親と子の子育て応援セミナー事業ということで、親の育児力を育てる、親と子の学習の機会及び交流の場を提供するというもので、これも先ほどご説明させていただきましたが、20年度については50組の親子を対象に12回の連続講座で実施しております。

この7番と8番については優先度Aということでございます。

それから9番目の子ども支援ネットワーク事業でございますが、こちらについてはこども支援関係者連絡会を開催してネットワークの強化を図るのが1つ、それからもう一つは、要保護児童等の支援に向けた連携を強化するというもので、事例検討会とか講演会を行う事業でございます。これは実施後数年たってきたわけですから

ども、連絡会は年2回、子育て支援関係者連絡会は5回実施しております。

資料を1枚おめくりください。10番目がスポーツフェスティバルでございます。これは平成3年から続いている事業でございます。スポーツを通じて交流を図るもので、大会等への支援というものを含めてやっています。それからもう一つの柱としては、健康増進を目的にした歩こう会等の企画、イベントを行う事業ということで、これは2本立てで続けてきております。

11番目の地域スポーツ促進事業でございますが、これは区内で行われている地域活動の情報を収集し発信して、各世帯にお知らせをしていこうという目的でございます。これについては、今年度は先ほどお話ししました「歳時記みやまえ」みたいな形で、スポーツに限らず、伝統行事とかお祭りの情報などが集まってきましたので、事業を今年度変える形で展開しております。

それから12番目がシニアライフ支援事業です。こちらも区民会議から出てきた課題でございます。シニア世代の地域デビューや生きがいづくりをサポートするため、宮前区シニアアドバイザーとの協働ということで、恒川委員さんにはこのシニアアドバイザーになっていただいているのですが、シニア相談窓口、地域コーディネート講座、大人の文化祭、こういった事業を実施しています。

なお、不用額が63万円ばかり出ていますが、大人の文化祭の講師謝礼の関係とか地域コーディネート講座の講師が内部講師を使ったというようなことで、差金が出ているという状況でございます。

それから、4番目が環境を守り自然と調和したまちづくりでございます。

まず、東名川崎インターチェンジ周辺整備推進事業でございます。川崎の北の玄関口としての東名インターチェンジ周辺の景観整備ということで、具体的に言いますと、地元の土橋町会を中心とした維持管理団体である土橋園芸クラブですが、こちらと協働しながら緑の育成などの取り組みを実施いたしました。ここでは季節ごとに美しい花がインターチェンジ周辺を彩るようになっていくということで、7月に開催されました第5回わがまち花と緑のコンクールで土橋園芸クラブが団体部門で大賞を受賞したということもございます。

こちらも不用額が大きくなっておりますが、これは花壇を新設した際に花植えを行いました。川崎市公園緑地協会の協力を受けることができて、そちらの職員の方が実技指導等を開催してくださったということで、経費負担が抑制できたというのが理由でございます。

1枚おめくりください。14番目が区役所の屋上緑化事業ということで、地球温暖化とかヒートアイランドの対策の一環として区役所庁舎の屋上を緑化しようということで、去年、区役所南棟2階屋上115.5平米に薄層コケによる緑化を行いました。これは数年間実施しようということで22年度まで続けて実施していく予定でございます。

それから5番目の分類としまして、個性と魅力が輝くまちづくりでございます。

15番目が地域の魅力発信事業ということで、こちらは観光協会さんとも連携しながら行っているのですけれども、20年度につきましては鷺沼駅にサインボード兼チラシパンフレットラックの設置などを行いました。今年度は宮崎台駅等でも行うということで予定しております。

16番目が、宮前区ガイドブック修正増刷事業ということですね。それから17番目がブックではなくてガイドマップということで、ブックとマップなんですけれども、いずれも好評につき、内容を一部修正して刷り増したということでございます。それぞれ必要な部数つくりまして、区民の方に配布させていただいております。

それから18番、19番、次のページの20番から23番につきましては、お祭り、イベント系の事業ということで、多くの区民の方に参加をいただいておりますし、また、区民の方と一緒にイベント、お祭り等をやっている事業でございます。開始年度も、ロビーコンサートですと平成5年度からということで、長いものが多くございます。

まずは18番がロビーコンサートということで、区役所ロビーで毎月1回実施しております。

次のふれあいフェスタは5月、来場者1万2000人ということで実施いたしました。

それから1枚めくっていただきまして、太鼓ミーティングでございますが、去年も8月23日ということで、毎年この時期に市民館や区役所前の広場等を使いまして開催いたします。

それから新春コンサートですが1月に実施しております。

22番のカップーク鷺沼地域交流・活性化推進事業は、カップーク鷺沼でのお祭りを地域の方とか施設の方と一緒に行った事業ということでございます。

23番目が友好都市交流事業ということで、長野県の佐久市と友好都市事業を行っております。こちらの交流に関する事業でございます。

それから6番目の分類は、参加と協働による市民自治のまちづくりでございます。

まず24番目はまちづくり推進事業ということで、これは区民と行政との協働による魅力あるまちづくりの推進ということで、区民、地域団体、企業代表、行政を構成員としたまちづくり協議会を設置いたしまして、その中で市民活動への支援事業ということで、広報紙の発行ですとか、資金支援などの活動支援、それからネットワーク化とかホームページ等、まちづくり学級もございまして、こういった中間支援機能についての役割を推進するという事業でございます。右側のほうの成果に書かせていただきましたが、ネットワーク化ということで70団体の情報公開ですとか、資金支援が17団体にできたとか、まちづくり学級を年間17回開催したというような成果がございました。

こちらは80万円余り不用額が出ていますが、これについては活動支援資金の申請金額が当初予算よりも金額が少なくなったということでございます。それから、まちづくり学級の講師謝礼というところで、講師を行政職員がやったということで節減が図られたということでございます。

1枚めくってください。25番が地域の課題解決に向けた事業提案制度でございます。こちらは地域の課題を地域みずからが発見し、課題解決していくことを目指すということで、事業提案を広く募集・選定して、選定された事業を市民活動団体が実施するというものでございます。20年度につきましては4つの事業の提案がありまして、うち2つが選定実施ということで、映像コンクールと輝け生命（いのち）！！みどりの回廊ネットワークづくりの2事業を実施しております。こちらも実施が2団体だったということで、委託料について不用が出ている状況でございます。

それから26番のまちづくり支援事業でございますが、これはまちづくり協議会だけではなくて、広く区民にまちづくり活動に対してコンサルティングを行うということで、それによって区内のまちづくりの活動のさらなる活性化を目指すという事業でございます。これはほぼ予算どおりの執行となっております。

それから、27番目は市民活動支援拠点ネットワーク事業ということで、区役所の中にある市民活動支援コーナー、向丘出張所にあります支援コーナー、連絡所、フォンテーヌ鷺沼、これはカッパークのところにあります特養の中にある施設でございます。有馬・野川生涯学習支援施設、こういうところを市民活動の拠点ということで、備品類を整備したりして市民活動がより活発になるよう支援させていただいております。区役所で言いますと86団体の登録、出張所ですと登録団体数は11増えて現在40余りになっているということで非常に増えております。

こちらの事業につきましても、不用額が220万円余り出ております。その理由としては、1点目はフォンテーヌ鷺沼のふれあいスペース宮前の開設時期が予定よりおくれたというのが1つございます。それから購入機器類、ここで用意すべき市民活動に必要な機器類ですけれども、こちらの企画を見直して縮減を図ったり、またOA機器自体の価格がかなり下がったという事情がございまして、多額の不用額が生じました。

それから28番が、これは今年度で終了しましたが、窓口サービス等向上推進事業ということで、繁忙期における混雑緩和対策でございます。

それから29番目が事業概要発行事業になります。これは前回の区民会議のときにも配らせていただきましたが、区の事業や予算をまとめた冊子を作成しておりまして、これを区民に周知するというところで、転入手続の際に配付するほか、希望者には配付しまして、区の情報を一元的にわかりやすく周知をさせていただいているところでございます。

それから最後のページになります。窓口サービス等向上推進事業でございます。こ

これは窓口利用環境の向上などを目的として、今回、区民課窓口のところに新たな番号表示システムを導入するというをさせていただいております。液晶ディスプレイの上に呼び出し番号のほかに地域情報や区役所からのお知らせも表示するような形で、番号表示かつ地域情報提供という2つをこの事業でやろうということで導入をさせていただいております。

それからその他として4つほどございますが、まずBGMの配信、これは庁舎内にBGMを流すということで、庁舎を明るく、身近で親しみやすい空間としようというものです。

それから32番がバリアフリー推進事業ということで、20年度につきましては、区役所北西側の歩行者通路・駐輪スペースをノンスリップタイルへの張りかえ、段差解消の整備を行うことによりまして、区民の方が安全に、また安心して利用できる庁舎づくりを行ったということでございます。これは21年、22年、23年まで続ける計画でございまして、市民広場のスリップ部分のノンスリップ化とか階段部分のノンスリップ化等を今後実施していく予定でございます。

33番が管理運営経費。これは協働推進事業を実施するためのさまざまな事務経費ということになります。ここで69万円余り不用が出ているんですけども、これは31番の事業とも関連するのですが、区民課の番号表示システムの導入に伴いまして、以前ありました区民課で使っていました番号発券機の修繕費が新しいものを導入したことによって要らなくなったということでございます。

それから最後は緊急対応費になりますが、緊急対応費の考え方については、合計欄の下のところにかかせていただきましたので説明させていただきます。緊急対応費は、資料にかかせていただきましたが、年度途中で新規事業や予算の追加を行うなどの必要が生じたときの費用として計上しているものでございます。平成20年度は当初予算として249万1000円を緊急対応費として計上していましたが、年度途中で事業追加をしたことによりまして、249万円では足りなくなりました。そこで、各事業のうち不用額が確定したものの中から、166万9000円を緊急対応費に充てさせていただいて、改めまして予算の追加を行いました。その結果、緊急対応費としては最終的には416万円をほかの事業に振り分けたということになります。416万円の内訳が、当初分が249万円余りで、他事業からの不用分が166万9000円余りということでございます。

以上が、平成20年度の宮前区協働推進事業評価についてでございます。大変お時間をとらせて申しわけございませんが、何かご意見等ございましたらいただければと思います。

永野委員長 ありがとうございます。平成20年度の協働推進事業の評価についての説明でした。何かご質問はございますか。

久保委員　ここで質問すべきことなのかどうかちょっとわからないのですが、27番の市民活動支援拠点ネットワーク事業で、備品類の整備等は区の予算からいろいろ出してもらえたりするということだと思んですが、ふれあいスペース宮前にかかわっていらっしゃる方が、開設してフリースペースというか、ふれあい広場を火曜日と金曜日にボランティアで開催している方がいらっしゃったんですけれども、掃除道具がなかったとか、そういう話があって、それはもう解決されたのかということ。本当にすごく細かいことで申しわけないのですが、こういうところにいらっしゃる方は地域のために時間を割いて無償でボランティアでやられたりとかしているものですから、そういったところの気配りとかは。

事務局（岩佐）　この市民活動支援ネットワーク事業の主なものは、市民活動を行う際に印刷物を印刷したりするときに必要な印刷機器のリース代とか、そういったものが主なものになります。ですから、ここで掃除道具があるかとかそういう話になると、それはまたちょっと別な方向の話になってしまうと思います。

久保委員　自主運営だったりすると、区役所の支援コーナーなどは使用料を取ったりとか、印刷をすることである程度利益を出して、それで運営していくという形になっていますよね。運営委員会がどういうふうな組織になって、どういうふうな運営をすべきかというのも多分自主活動ということだと思んですが、そこに任せるとか、そういう備品はそこで調達するという考えということですか。

地域振興課長　地域振興課の有山でございます。宮前のふれあいスペースの関係ですね。先ほど企画課長からお話ししたとおり、印刷機器のリース代を区で支出しています。掃除用具については事前に簡易なものは用意いたしました。ほうきと塵取りだけですが。ふれあいスペース宮前は地域の方々が自主運営をされており、1団体1,000円の登録料などを徴収し運営しているところですが、その中で業務用掃除機などを運営委員会で購入していただいています。

また、実際にはまだ20団体ぐらいの登録ですので収入があまり入っていません。そこで運営委員会では、社会福祉協議会へ助成金の申請をし、8万円の助成を受け運営している状況です。

区長　今の久保さんの話、僕が見に行ったときにそんな話を聞きまして、もうちょっと行き届けばよかったかなと思ったので、よく言っていただいたと。

永野委員長　その他。河井さん。

河井委員　14番の宮前区役所屋上緑化事業なんですが、前回は質問させていただいて見せていただきました。これは3階のところですよ。区民がちょっと見えないようなところで、私が見に行ったときには残念ながらこけが緑色にはなっていないくて、高津区でうまく行っているから宮前区もやられたという前回のお話だったのですが、その後どうでしょうか。

事務局（岩佐） 20年度は企画課や総務課のある後ろ側の場所を行ったところなんですけれども、この冬に行いまして、雨等も降った後など最近緑がはっきり出るようなときもございます。またごらんいただければと思いますが、また、それとは別に今年度、皆さんのほうから見られるところで言うと、今度は4階の大会議室で区民会議をやりませんが、そういうところから見られるように、その前、今度は企画課や総務課がある上の階、4階からよく見えるところに、そこに120平米ぐらいのものを設置しております。そこは前年度の反省等も踏まえて薄層ゴケの研究等もしまして、ことし工事を行ったところなんですけれども、そちらも見ていただければと思います。申しわけないのですけれども、一定期間はどうしてもかかるということもありますので、若干長い目で見いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

河井委員 わかりました。ただ、ここに実際見たのですが、周りを立派なれんがでくるんでありまして、そのれんがの高さに合わせるためでしょうか、こけ自体は非常に薄いんですね。ですから、ここに書いてありますけれども、断熱材をあわせて敷いてあるということなので、その効果ですけれども、断熱材を敷いただけで、別にコケを使わなくても当然建物の断熱性を向上させることができるわけで、コケの効果というのはなかなかわかりにくいのではないかとは思っているので、アピールをするという面では、ここに市民活動団体や事業者からの問い合わせがあったということで、市民活動団体は私だけだったのかわかりませんが、ぜひ今度見えるところに使うのであれば、区役所もエコをしているということをアピールされて区民に広く認知されないと、何せ115平米で252万円という、ほかに比べて非常に高額な予算が使われていますので、せっかく投資しましたので、長い目で見てまいりますので、そういったことに関してこれからは雨がちょっと少なければほったらかしではなく、お水をちょっとあげるとかいうこともされて、むだにならないようにしていただければと思います。

事務局（岩佐） わかりました。そこら辺については管理を含めてやっていきたいと思えます。また、何人か見学に見えている方もいらっしゃると思いますので、もう少し良い状況にしながらPRするようにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

鈴木（和）委員 これがあることを知っている区民がどのくらいいるかということですよ。知らない人のほうが多いのではないかと。皆さんに、これだけお金をかけてやって、エコのことで頑張っているんだということと、重要性があるということを知っていただかないと、こんなにかけて何も役立たないのではないかとやられないように、ちょっとそれを私は聞いたものですから、自分が言っているわけではないのですが、少し思いますので、皆さんにここにこういうのがあるよというのをお知らせして、区役所に入ってきたら矢印でもして、ここにこういうのがあるよというのをわかるようにしないと、上にあるだけではだれもわからないと思いますので、ここに行くところいうすばらしいのがありますよというのを書いていただければ、私も実は行っていな

くてごめんなさい。そういうことでわからない人が多いと思いますので、わかるようなそういうものを出していただいて、区民にもわかるようにしていただきたいと思います。私が単に知らなかったのかもしれませんが、お聞きしたいと思います。

事務局（岩佐） 庁舎の何カ所かには張らせていただいているんですけども、多分目立たないということだと思いますので、その点につきましては庁内を見まして、しっかりPRできるようにしたいと思いますので、よろしくお願いします。

鈴木（和）委員 私が気がつかなかったのかと思いますけれども、年寄りも多いわけですから大きく書いてわかるようにしてあげていただきたいと思います。よろしく願いいたします。子どもも上がって大丈夫なのですか。

事務局（岩佐） それはちょっと危ないところがありますので難しいかと思います。

鈴木（和）委員 では、そういうことを指示したほうがいいのではないのでしょうか。お願いいたします。

永野委員長 ありがとうございます。ほかに。松井さん。

松井委員 今、屋上緑化の話があったので、この数字を見て251万円と。広さと、ここは技術的な問題で、初めてのトライで、いろいろ専門家がやってそれなりのことをするのでお金がかかるということはあるかと思うんですがね。あともう1つ、東名川崎インターチェンジで先ほどいい情報がありましたね。土橋園芸クラブが一生懸命やってコンクールで1位になったと。非常によくやってくれていると思うんですね。我々も一緒に協力してやっているのですが、大変うれしいことなんですね。ただ、我々がこれを進めるに当たっても、情報公開というかそういうことでは、教えてくれということで、いまだに教えてもらっていないのですが、あそこを役所で管理して花を全部業者に出して植えていたときに、どのぐらいのお金が1年間でかかっている、公園緑地協会で全部出してやっていたときがあるんですね。それで今、土橋園芸クラブにどのぐらい出しているのか。役所でも多少お金を出してこれだけのことができていますが、かなり安くできているのではないかと私は思うんですね。

そういう市民が協力してやれるということについて、業者がやっていたところを、業者と競争するとか比較するということではないのですが、ただ、余りにも額が違い過ぎる場合があるのではないかと思うんですね。市民もボランティアでかなりやっているので、実際、この人たちも表彰されて非常にうれしくて、明日祝勝会をやろうと非常に盛り上がっているのですが、そういうことは非常に結構なことなんですけれども、市民がボランティアでやっていただけることは非常にとうといことなんですけれども、実際に余りにも無償で働いてもらうということが多いように思うんですね。

その辺をどの程度までどう出したらいいかというのは非常に難しい問題なんですけれども、協働、協働という言葉が出てきますが、役所の人仕事でやっているんですよ。一般の市民の人は、協働といってもそれはボランティアなんですね。その辺の

ところが、もう少し市民の協働の仕方の中で、市民が動く、我々がいろんなことで出ていっても交通費すら出ないイベントもたくさんあるわけです。それが欲しいとか何とかということではなく、今後、もうちょっとそういうことも加味した中で市民を上手に活用するというか、市民もやったことが楽しければ無償でも結構できるんですけれども、公共的な面で役立って、行政がお金をかけて業者に頼んだことに比べるとえらい安くできるという問題があるのではないかと思うんですね。業者と同じ値段ではなくても、そういうところを多少配慮しながらやってもらえればなど。市民の場合、よく我々もいろんなイベントのときに言うんですけれども、弁当代も出ない、交通費も出ないという中で、いろんなイベントを仲間がみんなやったりしているんですね。そんなことが1つ感じられます。それは一つのコメントということで結構でございます。

それからもう一つ、私はまちづくり協議会から出ているので、まちづくり協議会のお金がお金が非常に使われていて、支援事業でコンサルにお金を払っている。それからまちづくり協議会でもプログラムを組んで、それにお金がかかっている。私もこのところに10年ぐらい参加させてもらって、おかげさまでいろんな勉強ができていますが、中間支援機能という言葉がたくさん使いながらも、中間支援機能として本当にこれでいいのだろうかということをしごく感じるんです。自分がやっていてそんなことを言うのはおかしいのですけれども、もうちょっと行政も中間支援機能と単純に考えた場合にどういう機能が必要かというのがわかったら、的を絞り込んで、それにいかに近づけるかということをもっと早く、もう何年もやっているんですよ。何年もやっても進まないんです。というのは進め方が悪いのではないかなと僕は思うので、これは市民の自主性がないからとか自立性がないからできないのではなくて、もうちょっと行政が上手にそういうことをリードしていくことが必要ではないかと思うんですね。

特に区民会議が機能し始めてから、まちづくり協議会の動かし方ももうちょっと本気で考えなければいけないのではないかと、自分もその団体から今こちらに出させてもらっていますが、感じますので、ぜひ検討していただきたいという私からのコメントでございます。

事務局（岩佐） 松井委員からは核心をつくような大きなご意見をいただいたと思いますので、区内部でも十分検討させていただきたいと思います。貴重なご意見を生かせるような形にしていきたく思いますので、よろしく願いいたします。また、これからも松井委員には別の場面でも、また区民会議の委員の皆さんにもご協力いただかないといけないと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

高木委員 それに関連したんですけれども、26番のまちづくり支援事業なのですが、区民の活動に対してコンサルがどういうふうなアドバイスをして、それがどういうふう

活性化されたのかということをもし具体的に事例があるなら教えていただきたいということと、具体的な展開方針のほうに、第6期活動に対して、従来の慣例慣行改善と書かれてあるのですが、この辺も含めてもう少し詳しく説明をいただきたいなど。実際、先ほど松井さんがおっしゃったように、区民が自分たちで活動するのにはかなり自腹を使ったりしていながらやっているのには、区民活動にこういったコンサルが適切などんなアドバイスをして、それが区民活動の活性化になったのかをもう少し具体的に教えていただけたらありがたいと思います。

地域振興課長 まちづくり支援事業ですが、慣例慣行を改善しということは、今回まちづくり協議会は第6期を迎えまして、公募のメンバー27名のうち3分の1、9名が新しい委員として加わり、コンサルタントもことしの3月に企画提案方式により選考し、4月から新たなコンサルタントに業務委託いたしました。ある程度の期間同一のコンサルタントと委員が連携しまちづくりを推進することは、互いの信頼関係や方向性が定まる利点はあるのですが、新たな展開が生まれにくい状況も考えられます。現状、コンサルが変わったことにより、まちづくり協議会の進め方も多少変わってきたと感じています。松井委員がおっしゃったように、まちづくり協議会ではこれからのあり方というものを現在、話し合っているところでございます。

コンサルの役目といたしましては、まちづくり協議会の委員の方々にはまちづくりに関してベテランが多く経験豊富ですが、様々な思い、意見をお持ちです。その意見調整やまちづくりの方向性についてのアドバイスを行っています。また、コンサル自体が他都市でのまちづくり事業の実績もあり、まちづくりに関してさまざまな知識・情報を持っていることがまちづくり協議会の推進に役立っています。

ただ、コンサルの成果というのはなかなか形で見えないのですが、長い目で見て成果が出てくるものだと考えています。

高木委員 ということは、このコンサルはまちづくり協議会だけにあるコンサルなんですか。一般的な区民の活動に対するコンサルをしているということではないのですか。

地域振興課長 一般的なものもやっているのですが、主にまちづくり協議会の関係をやっております。まちづくり協議会は今、中間支援機能ということで、あらゆる団体の相談を受ける。区でもまちづくりの関係の課題が出るので、そういう場合にはコンサルを活用している形をとっております。

永野委員長 きょうはこの施設を借りているので余り延ばすわけにはいかない。片づけもして返さなければいけないということなので、もう1人ぐらいの質問にとめたいのですが。

持田委員 34番の緊急対応費なのですが、新規事業や予算の追加を行う必要が生じた場合の費用として準備しているということなのですが、各事業が全部予算が余っている中で——これは余っていると見ていいわけですね。なのに、なぜここはマイナスになるか

というのを説明していただけますでしょうか。

事務局（岩佐） 表のつくりとしては249万1000円を予算額として載せてありますが、これを緊急対応という形で考えていたのですが、実際はほかの事業に割り振った額の合計が416万円だったので、その不足分が追加予算という形ではマイナス表示になっております。それで最終予算額は416万円と249万1000円の差をマイナス表示で載せているということになります。その結果当初予算に比べると、緊急対応費は166万9000円足りなかったという表示になっているということでご理解いただきたいと思います。

持田委員 ここだけが足りないということですね。

事務局（岩佐） 足りないというよりも、緊急対応費自体は事業ではなくて、他の事業にあてるための予備というか、補正をするための予算科目ということでご理解いただきたいと思います。

永野委員長 それでは、時間がありますので、その次に移りたいと思います。その他ということで、その他の1つ目に、企画部会で先日話し合いました、次回の全体会の日にちについてございます。次回の日程については企画部会で話し合いました、11月13日金曜日、時間はきょうと同じ6時からと皆さんで話し合ったのですが、よろしいですか。もし異議がなければ、次回の区民会議はそこで開きたいと思います。

（「異議なし」の声あり）

永野委員長 では、11月13日の区民会議をもって区長への提案がまとまる会議になろうかと思えます。よろしく願いいたします。

その他、余り時間ありませんが、その他何かご意見はございますでしょうか。

前田副委員長 1点だけです。きょうも残念ながら、新しい施設ができたんですけども、ここで市民の方の傍聴はなかったみたいなのですが、この区民会議の広報はどういうふうになさっているのかお聞きしたいと思います。

事務局（岩佐） 広報については、市政だより宮前区版で、開催結果や次回の開催日程については必ず載せています。それからホームページでは会議結果の詳細、また次回会議の開催予定等も載せさせていただいております。

永野委員長 せっかく有馬へ来て1人も傍聴者がいないというのは寂しいことで、その辺、ほかの地域でやるときはちょっと工夫をしていただきたいと思います。

お時間の関係で、せっかく参与の皆さんに最後までいていただきましたが、ちょっと時間がないということでございます。

それでは、きょうの結果をまた各部会へ持ち帰ってまとめていただきたいと思います。

時間になりましたので、事務局へ戻したいと思います。

司会（門ノ沢） 永野委員長、本当にありがとうございました。

本日は長時間にわたりましてご議論いただきまして、まことにありがとうございました。

す。最後になります。閉会に当たりまして松下区長よりごあいさつを申し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

区長 本日は本当に長い時間ありがとうございました。本当にせっぱ詰まった時間で、このあいさつの時間をもらうのも遠慮がちなんですけれども、少しコメントをさせていただいて、あと1分ほど時間をいただければと思います。

まず子育て支援の関係は、前回からありましたけれども、首都圏では恒常的にやっているようなものだよということをご指摘いただきました。この点につきましては、我々もどうしても区政推進事業という形での枠の中にとらわれているという部分がありますので、行政のくびきといいますか、能力とか分担ばかり考えて、実際何を皆さんが要望しているかという市民目線というものをもう一度見直していく必要があるのではないかと思います。どうしても検討するという言葉が多くなる会議が、行政の場合言いますけれども、検討ではなくて、今こういうことなんだよと訴えていく、それは区民会議で言われているという部分は訴えていきたいと思っています。

それからそれと同じことで、こ文のニーズ浸透の問題。久保さんのほうからありましたけれども、こ文で今どういうものが地域の子育ての中で要求されているかという部分を見ていきたいと思っております。

第1期からの提案に対する取組状況につきましては、歳時記、これは若干ご評価いただきましたけれども、防災の関係は去年初めてやって、ことしやって、受ける側の負担というか、そこら辺も考えないといけないのかなということで、レベルダウンしないようにやっていきたいと考えております。

それと宝さがしの部分、その前にプレイパークにつきましては、いろんな議論があったりして、公園というものが施設はあるけれども人の顔がないとか、そういうものをもう少しプレイパーク議論を進めて持っていきたい。老人の体操もあるし、そういった中で人と人とのつながりができてくるのではないかと思います。

受け皿問題が先ほどありましたけれども、受け皿をつくれればできるという部分がありますから、受け皿がないから行政はやりづらいつらいつらという部分は突破していかなければいけないのかなと考えております。

宝さがしのカルタ、これは結構難しいかもわかりませんが、いろんなところで似たようなことをやっていますけれども、テーマ性とか時間性もあるなど。去年いろんな宝をリストアップした。そういった中でどういうものを取り込んでいくかという部分があるかと思いますが、時間がないので早口になって申しわけないのですが、そんなことを感じました。

決算の部分ですが、いろんなご議論がある中で、私どもも似たような部分は若干感じておりますが、予算の執行の仕方というものをもう少しきめ細かな形でやっていかなければいけない。それと予算はどこへどう使えば地域とか皆さんにどう生きてくる

のか。行政側の勝手な感覚だけではなくて、せつかく5500万円ありますから、そういった中で検証していきたいと思っております。

最後の委託の問題も、ここ10年以上やってきて、そういったものの評価をもう一度やらなければいけないのかなということで、地域振興課長は結構苦勞していましたが、みんなで協議してやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

本当にきょうは8時半までどうもありがとうございました。これから進行をもう少し、事務局の説明をコンパクトにしたりしてやっていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。（拍手）

司会（門ノ沢） どうもありがとうございました。先ほど、8月22日に行います「響け！みやまえ太鼓ミーティング」のチラシと、こちらの有馬・野川生涯学習支援施設のチラシ、それとただいまニックネーム募集中でございますので、そのチラシをお配りさせていただきました。後ほどご参照していただきたいと思ひます。

それでは、これをもちまして第2回宮前区区民会議を開会させていただきます。本日は長時間にわたりましてありがとうございました。（拍手）

午後8時31分閉会